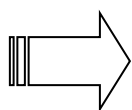


学校応援団のすすめ

子どものために何かしようという地域の方が増えてきました。
学校では、教育活動を一層充実させるため、ボランティアの支援を必要としています。

では、どのように参加したらよいのでしょうか。



地域の回覧や学校だより、ホームページなどで情報を集めてみましょう。

詳しい内容については実施主体である市町村担当課へお問い合わせください。

学校とボランティアのよい関係づくりのために

子どもの教育を学校だけではなく、家庭・地域と一体と行うという意識が定着してきましたが、ボランティアを学校に申し出ても、学校がなかなか動いてくれないというお話を聞くことがあります。

たしかに、学校はまだ敷居が高いといった面があるかもしれません。

しかし、学校としても、よく知らない人に、子どもの教育を任せることに不安を感じるはずです。

ボランティアを始めようという方は、活動に参加する前に、授業公開や運動会など学校行事に参加してみてもいいでしょうか。

学校ってこんなところですよ

小学校の1日（例）



7:45	登校	
8:15	職員打ち合わせ・朝読書などの業前活動	
8:30	朝の会	
8:40	1・2校時	
10:20	中休み・業間活動	
10:45	3・4校時	
12:25	給食	
13:10	昼休み	
13:45	清掃	
14:10	5校時	
14:55	帰りの会	15:00 6校時
		15:45 帰りの会
	放課後	



学級担任の先生と連絡をとる場合、中休みや昼休み、放課後だと連絡がとりやすいです。

直接、話をする場合には、放課後の午後4時以降が最適です。

ただし、月曜日の放課後は、職員会議を行っているところが多いので、ご注意ください。

活動するにあたって

活動前には

- ・学校のねらいや子どもの様子について確認しましょう。
- ・活動内容について、自分の考えを提案しましょう。
- ・当日の動きと活動場所、活動中の安全を確認しましょう。
- ・約束の日時を変更するときは、事前に連絡をしましょう。
- ・避難経路、不審者と遭遇したときの連絡方法を確認しましょう。

活動中は

- ・明るくあいさつしましょう。
- ・名札を付けましょう。
- ・大きな声で話しましょう。
- ・子どもをほめましょう。
- ・時には、厳しい態度も必要です。



活動を終えて

- ・活動を振り返り、記録に残しましょう。
- ・気づいたことは、遠慮せず先生に相談しましょう。
- ・ボランティア仲間を作りましょう。

学校でのルール

- ・いかなる場合でも体罰は行ってはならない。
- ・活動で知った子どもの秘密を守る。
- ・子どもの前で学校や先生の批判をしない。

学校とボランティアの橋渡し(コーディネーター)

つなぐ



ボランティア活動をしたいという地域の方の思いや、ボランティアの応援がほしいという学校のニーズをつなぎます。

特定のボランティアに仕事が集中してしまうと、本来の役割をこなさきれなくなってしまうので注意しましょう。

知らせる



学校が必要としているボランティアの情報や、活動の様子を、地域や学校へ伝えます。

(例) 学校だよりや広報紙、掲示板、ホームページ等

また、ボランティア名簿は、文字情報だけではその人柄や技能を十分に把握できるものではありません。

登録者の指導を披露できる機会を設けるなど、ボランティアの活躍できる場面をみんなで考えながら、活動内容を工夫することが必要です。

広げる



ボランティア活動がよりよい活動となるよう、研修会や交流会を実施します。ボランティアの横のネットワークが築かれ、組織化につながります。

気づく



コーディネーターは、ボランティアと学校の両方の声を聞くことで、問題点に気づくことがあります。

両者に伝え、一緒に解決策を考えましょう。

また、危機管理として緊急時の連絡体制を確認したり、個人情報の取扱いに注意したりしましょう。

学校支援ボランティアの方のために

【参考文献】

秋田県教育委員会

「学校支援地域本部事業 実践ハンドブック」

茨城県学校支援地域本部運営協議会

「学校支援地域本部 ハンドブック」

滋賀県教育委員会

「さあ、はじめよう！ 学校支援ボランティア」